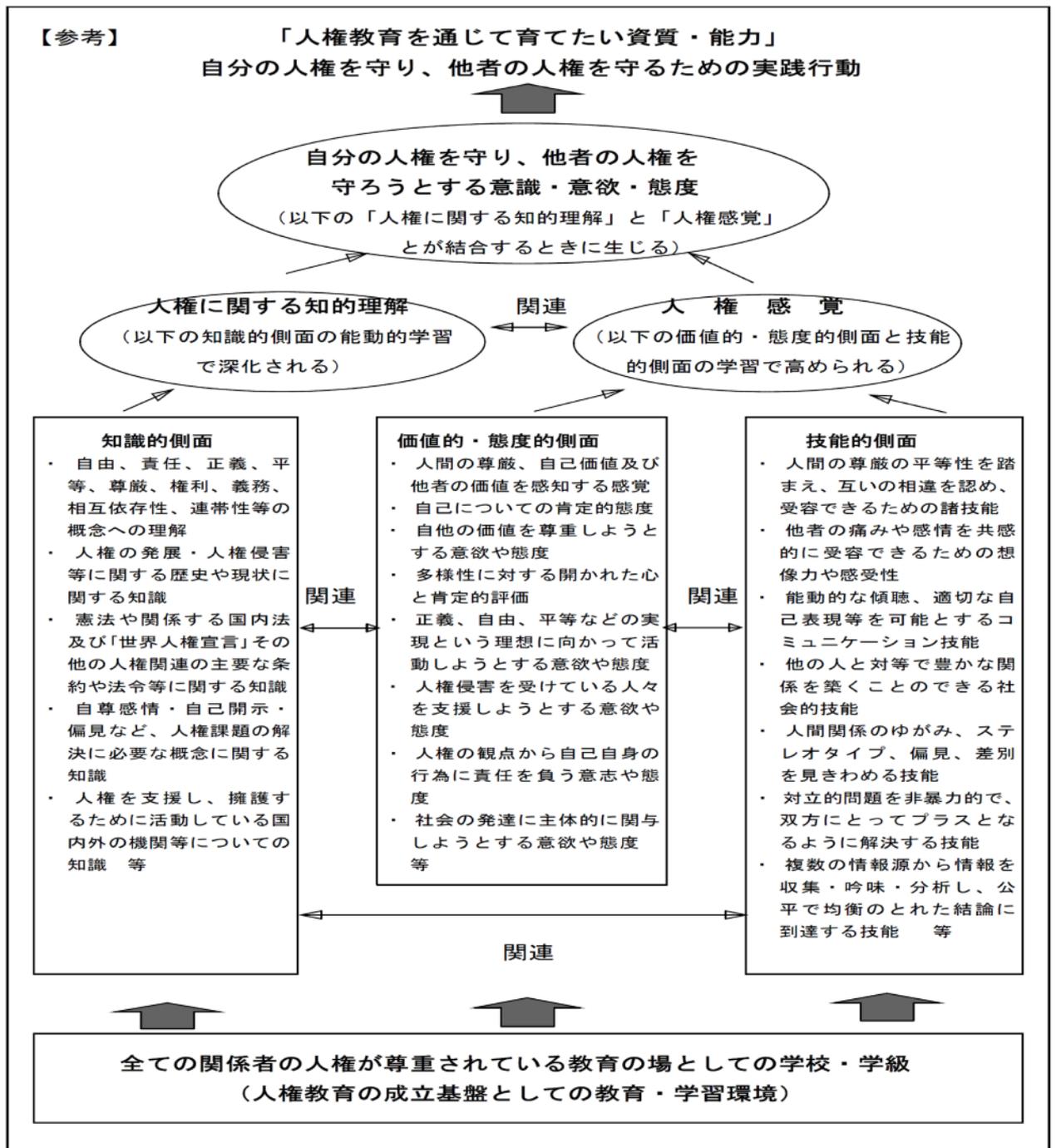


# Ⅲ 人権教育の推進

## 1 人権教育を通じて育てたい資質・能力の明確化

人権教育は、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動です。この目的を達成するためには、まず、人権に関する知的理解が必要です。また、併せて、人権感覚を育成することが必要となります。

こうした人権に関する知的理解と人権感覚を基盤として育成される、意識や態度、実践的な行動力などの資質・能力については、次の3つの側面（①知識的側面、②価値的・態度的側面及び③技能的側面）から捉えることができます。①知識的側面は知的理解に深く関わり、②価値的・態度的側面と③技能的側面は、人権感覚に深く関わっています。



「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次取りまとめ〕」から

人権教育を学校総体で推進していくためには、学校教育目標、人権教育の目標や児童生徒の実態等を踏まえたうえで、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を知識、価値・態度、技能の3つの側面から明確にする必要があります。

その際、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次取りまとめ〕」の例示は表現が少し難しいので、以下の記入例を参考にしながら「目指す児童・生徒の姿」として位置付け、全職員による共通理解・実践がしやすいようにしてください。

また、人権教育の目標と各教科等の目標やねらいとの関連を明確にした上で、人権に関する意識・態度、実践力を養う人権教育の活動と、それぞれの目標・ねらいに基づく各教科等の指導とが、有機的・相乗的に効果を上げられるようにしていくことが重要です。

そこで、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」と各教科との関連性を分析し、明確にしておくことが必要となります。詳しくは次の資料を参照してください。

人権教育を通じて育てたい資質・能力 分析シート(例:中学校)

側面	重点	人権教育を通じて育てたい資質・能力 〔第三次取りまとめ〕から	目指す生徒の姿	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	外国語	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		
知識的側面		自由、責任、正義、平等、尊敬、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     このシートは、人権教育を通じて育てたい資質・能力について、教科会等での話し合いを進めるうえでの参考資料として提示しています。活用に当たっては、各学校の実情に応じて、行や列を増やしたり、セルを結合したりする等、全教職員の共通理解がなされるよう工夫を行い、活用してください。                 </div>															
		人権の発展・人権侵害に関する歴史や現状に関する知識																
		憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識				○					○			○	○			○
		自尊感情・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識																
価値的・態度的側面		人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関についての知識																
		人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚																
		自己についての肯定的態度																
		自他の価値を尊重しようとする意欲や態度																
		多様性に対する開かれた心と肯定的態度				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度																
		人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度																
		人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度																
技能的側面		社会の発展に主体的に関与しようとする意欲や態度																
		人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能																
		他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性																
		能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能																
		他の人と対等で豊かな関係を築くことができる社会的技能																
		人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能																
技能的側面		対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能																
		複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に達成する技能																

## 2 人権が尊重される授業づくり

### (1) 人権が尊重される授業づくりの視点

人権教育の推進に当たり、日々の授業における活動の一つ一つが、人権尊重の雰囲気醸成するうえでの重要な要素となります。「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次取りまとめ〕」には、人権教育の視点に立った授業の工夫を進めていく際の、主な視点の例を示してあります。

#### 〔人権が尊重される授業づくりの視点例〕

##### 《視点》○自己存在感を持たせる支援を工夫する。

ねらい	ポイント・留意点
「授業に参加している」という実感を持たせる。	<input type="checkbox"/> 学習内容や活動に応じた座席の工夫や発問・応答のパターンの工夫を行う。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の既習事項や生活体験、興味・関心等を把握し、様々な視点から解決できるように課題設定の工夫を行う。等
「自分が必要とされている」という実感を持たせる。	<input type="checkbox"/> 意図的な指名等、一人一人が活躍する場や課題を工夫する。 <input type="checkbox"/> 自由な発想や方法が認められたり、自己選択できる場を工夫する。等
教師自身が一人一人を大切に作る姿勢を示す。	<input type="checkbox"/> 一人一人の名前を呼び、目を見て話す。話をよく聴く。 <input type="checkbox"/> 発言しない児童生徒に配慮するとともに、適切な支援を行う。等

##### 《視点》○共感的人間関係を育成する支援を工夫する。

「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。	<input type="checkbox"/> 「誰にでも失敗はある」、「誰もがよさや弱さを持っている」という認識に立って、互いを尊重し合う人間関係づくりを行う。 <input type="checkbox"/> 一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりを行う。等
「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。	<input type="checkbox"/> 他者の発言や作品のよさに気づき、学ぼうとする態度を育てる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えと異なる意見や感情を拒絶せず、それを理解する技能を育てる。等

##### 《視点》○自己選択・決定の場を工夫して設定する。

ねらい	ポイント・留意点
学習課題や計画を選択する機会を提供する。	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、複数の学習課題の中から自分にあった課題を選択する機会を設定する。 <input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、学習の見通しをもって計画を立てるための支援を行う。
学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。	<input type="checkbox"/> 児童生徒の実態を踏まえて多様な教材・教具を準備し、選択の幅を与える。 <input type="checkbox"/> 自分の習熟の度合いや興味・関心に基づいて、教材・教具を選択できる場を設定する。
学習方法を選択する機会を提供する。	<input type="checkbox"/> 児童生徒の実態を踏まえて児童生徒の実態や学習内容に応じた学習方法を提示し、選択の幅を与える。 <input type="checkbox"/> 課題解決のための情報や資料を準備し、その活用方法について適宜助言する。等
表現方法を選択する機会を提供する。	<input type="checkbox"/> 児童生徒の実態を踏まえて多様な表現方法を提示し、選択の幅を与える。 <input type="checkbox"/> 考えをまとめるための多様な学習ノートを準備する。
学習形態や場を選択する機会を提供する。	<input type="checkbox"/> 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習形態や活動の場を多用に提示し、選択の幅を与える。 <input type="checkbox"/> 自分の課題や方法に基づいて活動内容や場所を選択する機会を設定する。等
振り返り方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。	<input type="checkbox"/> 児童生徒の実態や学習内容に応じた学習成果のまとめ方を多様に提示し、選択の幅を与える。 <input type="checkbox"/> 自他の学習課題や解決方法、学習の仕方やまとめ方を振り返って交流する時間を設定し、他者の成果に学ぶとともに、今後の学習課題や方法について選択・決定できる場を工夫する。

(2) 「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を育む授業

「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の育成に関する実践事例を紹介します。  
 荒尾市立平井小学校では、[第三次とりまとめ]に例示してある「人権教育を通じて育てたい資質・能力」をもとに、自校における「人権教育を通じて育てたい資質・能力」と「目指す児童の姿」を明確にしています。そのうえで、毎時間の授業の中に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付け、すべての教科で資質・能力を育む実践がなされています。

また、「人権が尊重される授業づくりの視点」も、授業の中に一緒に位置付けてあります。

**5 本時の学習**

(1) 本時の目標  
 ものを燃やすはたらきがある気体は何かを調べ、酸素には、ものを燃やすはたらきがあることを理解する。

(2) 本時の評価  
 A: 酸素には、ものを燃やすはたらきがあることを、実際の結果と結びつけて理解している。  
 B: 酸素には、ものを燃やすはたらきがあることを理解している。

(3) 人権教育で育てたい資質・能力  
 実験や話し合い活動など相手を区別しないで誰とでも協力して活動する。  
 (技能的側面－エ)

(4) 本時の展開

過程時間	学習活動 ○主な発問、指示・児童の反応	指導上の留意点および評価 ◎人権が尊重される授業づくりの視点 理科の評価 (◇) 資質・能力 (◆)	備考
15	○ 実験方法を説明します。 ① まず、 ・気体は、 ・協力して、 ② 次に、 ・気体は、 ・集気瓶は、 ○ 実験の	実演で示し、視覚的に れるようにする。 ◎実験で使う道具等を事 理しておき、準備時間 できるようにする。 ○班で協力して準備する うに、全員が行動する 声かけを徹底する。	授業づくり の視点
学び合う	3 ちっ素 そくの燃 ○班で協力しながら、ちっ素の燃えるよう すの違いを観察して記録しよう。 ・ちっ素はろうそくの火がすぐに消えた。 ・二酸化炭素もすぐに消えてしまった。 ・酸素の中では、ろうそくの火が明るく くなったぞ。 ・酸素にもう一度入れてみたら、今度は火が	◎能動的な学習になるように、 記録係等を固定せずに、全員 で観察するよう指示する。 (自己存在感②－エ) ◆区別しないで、誰とでも協 力して活動できている。 (技能的側面－エ)	理科ノート

育てたい  
 資質・能力

〔6年生理科の学習指導案（展開）例：一部抜粋〕

「熊本県人権教育推進資料」から

本実践では、指導案上に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を明記してはいますが、重要なのは、その授業が「人権教育を通じて育てたい資質・能力」のどの「資質・能力」を育てているのか明確にし、意識して授業にのぞむということです。

自校の「人権教育を通じて育てたい資質・能力」が、すべての教科（授業）で子どもたちに育まれていく実践が望まれます。

